

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより
第41号
2020(令和2)年5月26日
(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

綿が取り持つご縁

— 吉田松陰、森田節齋、谷三山 —

近世大和の綿作について調べている中で、吉田松陰(1830-59)が奈良を訪問していたことを知りました。嘉永6年(1853)のことです。その目的が五条の森田節齋(1811-68)や八木の谷三山(1802-68)との面会にあったと知り、驚きました。節齋も三山も初めて耳にする名前です。あの松陰がわざわざ面会を求めた兩人とはどんな人物だったのか。綿が取り持つご縁で、また一つ世界が広がったような気がしています。

脱藩の罪で士籍を剥奪されていた松陰が、改めて10ヶ年遊学の藩許を得、道中で多くの知名の人士を訪問しつつ江戸を目指したときの旅日記が『癸丑遊歴日録』です。ペリー来航を知り、急遽調査のために浦賀に赴いたのもこの旅の途中だったようです。以下の引用は『吉田松陰全集』第9巻(大和書房 2012)に拠っています。

嘉永6年正月26日に萩を出発した松陰は2月10日に大坂に入り、12日には森田節齋に会うために五条(現在の奈良県五條市)を目指し四天王寺、平野、藤井寺、羽曳野、太子町を経て竹之内峠から奈良県に入ります。このときの印象を「大坂を発してよりここに至る七里、皆平田の中、藁・麦共に緑にして一望涯なし。地は蓋し多く草綿を生じ、家々軋々たり。機の制は所謂下機なるものと相類して前面極めて高く、譬へば陰崖峻嶺の如し。織る所は即ち所謂河内縞なるものなり。」(305頁)と記しています。時期的にアブラナや麦が伸び始めているときで、見晴るかすかぎり畑一面が青々としていたのでしょう。ただ、この辺りは綿花栽培が盛んな土地でもあり、家々からは機織りの音が聞こえてきます。用いられている織機は河内下機で、織物は河内縞。「陰崖峻嶺の如し」とは、大和機にも似た傾斜型の木綿機が松陰にとってはよほど珍しかったものと思われる。

13日に現在の葛城市當麻から新庄を経て、五條市の森田謙蔵(節齋)の邸を訪ねています。節齋は多くの幕末志士に影響を与えた儒者です。節齋との再会の喜びを松陰は「快甚だし。」(307頁)と書き留めています。そして、その後は数日間にわたって節齋と行動を共にし、大阪の富田林や岸和田にも出向いています。この頃の記述に「河泉の間は女工甚だ盛なり、男子も亦閑るときは即ち綿を紡ぐ、亦一奇なり。」(308頁)とあります。富田林は南河内、岸和田は和泉(泉州)です。とにかく河内や泉州地方は機織りが盛んで、男子も時間があれば糸を紡いでいる様子が奇異にさえ感じられたようです。

やがて松陰は3月3日に大阪府の熊取町から、泉佐野、貝塚、岸和田、堺を経て大坂にもどりますが、4月にまた奈良にやってきます。今度は八木(現在の奈良県橿原市八木)の谷三山に会うためです。谷は全豊でありながら高取藩主から厚遇された高德の儒者です。4月5日に面会したときのことを「谷三山翁に謁す。畝傍山・耳無山・香具山を三山と為す。」(313頁)と記しています。5月2日に再び面会し、そのときの話題(筆談)は歴史・思想・政治など多岐に及んだようです。翌3日に八木を発ち大和郡山に入り、4日奈良、5日に京都に入っています。

松陰が、同士としてまた師として慕った節齋と三山。二人の凄まじい生き様を知ることができたのも綿のおかげです。



綿の種蒔きの様子(5月3日)

Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和2年4月24日～令和2年5月23日)

千葉県1、神奈川県2、愛知県1、滋賀県1、京都府1、兵庫県1、和歌山県1、広島県2、沖縄県1

【H.A.M.A.木綿庵】(令和2年4月24日～令和2年5月23日)

メールを含む各種相談件数3、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数2件4名

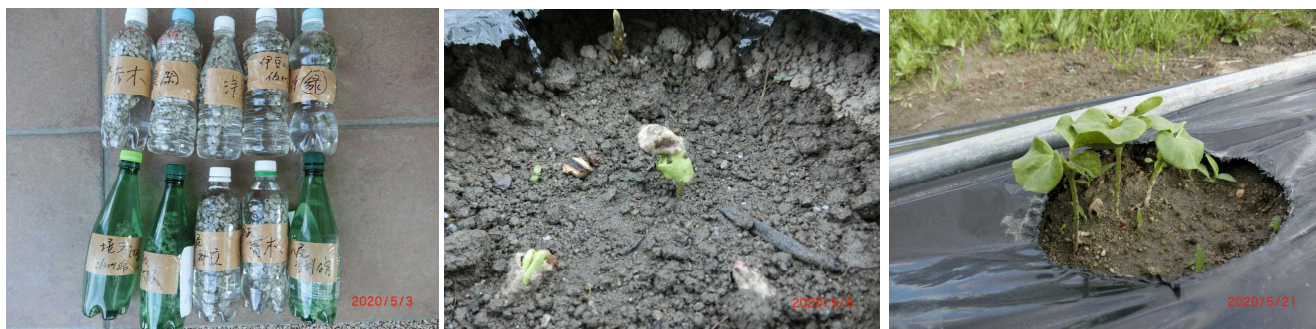


《綿の栽培記録 2020》－ 令和2年度版 その5－

天理市乙木町における梅田の感覚的観測データです。○=晴れ。△=曇り。×=雨。○/×=晴のち雨。○|×=晴時々雨。
△:×=曇り一時雨。 4月26○、27○、28○、29○、30○、5月1○、2○、3△、4○、5○、6△:×、7○、8○、9△:×、10△:×、11○、12○、13○、14○、15○/△、16×、17△/○、18△/×、19△/○、20○、21○、22△、23○|△、24△|○。25○|△。

5月4日に予定していた恒例の公開イベント「綿の種蒔き&草木染め」を中止にしたため、今回は夫婦2人だけですべての畑の播種作業を行いました。今年は綿種の産地にもこだわり、各地の方々にご協力をいただき、和綿の白だけで河内綿系3種類、伯州綿系2種類、真岡綿系1種類、木綿庵の種2種類の計8種類。加えて和、洋の茶綿と洋の緑綿で計11種類の種を準備。播種後2日目には全体の約5分の1が発芽、1週間以内に9割近くが発芽しました。ただし、2週間目によろやく発芽したものもありました。

写真左：前日の夜からペットボトルを用いて種を水に浸しておく。中：播種後2日目。右：播種後18日目の様子



《紅花と藍の栽培記録 2020》－ 令和2年度版 その2－

紅花の生長の速さに驚いています。特に8号畑ではすでに30cmを超えているものもたくさんあります。紅花は間引きが必要なため、すでに2回に分けて間引きを行いました。間引き葉には豊富な栄養素が含まれており、アンチエイジング食品として注目されていることを初めて知りました。また間引き菜で草木染めにもチャレンジ。緑色の若葉から黄色の染液を抽出することができました。藍も順調です。写真左から1：紅花5月13日。2：紅花5月27日。3：紅花の間引き菜で草木染め(草木灰によるアルカリ媒染)。4：6号畑の藍。



【綿の加工の作業記録】 (梅田 1人の作業量)

- 糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿：4月3日以降は平成30年, 2018年産。丹羽正行氏による打ち綿)
4月24日～5月23日 (作業実日数13日) 糸の総量67.9g (18.1匁) 総時間198分 (3時間18分)
※1分間≒0.343g 1時間≒20.6g (5.5匁)

【研修等の記録】

- 令和2年05月24日「奈良県立図書情報館」(奈良市大安寺)にて資料調査。
- 令和2年05月25日「なら食と農の魅力創造国際大学校(NAFIC)」(桜井市) 短期農業研修開校式。
※令和2年4月16日より全都道府県を対象に発出されていた緊急事態宣言が、約1ヶ月後の5月14日に奈良県を含めた39県で解除されました。さらに、5月21日に大阪、京都、兵庫の2府1県が解除され、5月25日に東京、埼玉、千葉、神奈川、北海道の1都1道3県の解除が発表され、全面解除となりました。

5月14日に奈良県が解除されたことに伴い、5月19日より奈良県立図書情報館の利用が可能になりました。ただし、原則として滞在時間は1時間。主に貸出、返却のみ。蔵書検索以外のPC利用不可。椅子はすべて撤去され、調べ物は立ったまま。

また、「なら食と農の魅力創造国際大学校(NARA Agriculture and Food International College、通称:NAFIC、ナフィック)」においても、短期農業研修(アグリマネジメント研修)開校式が5月25日に行われ、令和2年度がスタートしました。